

## ○一万円札の原価は 20 円

日本銀行は、千円から一万円まで、年間 600 億円分の新紙幣を、独立行政法人国立印刷局から買っています。平均すると一枚のお札は、16 円になると言いますから、コストのかかる複雑な一万円札は、20 円ちよつとの値段でしょうか。

偽札の問題が中国や北朝鮮発の組織犯罪だとささやかれていることもあって、今年の財務金融委員会の視察先を横浜のお札の研究所と工場にしました。ミツマタを基本にした和紙原料をもとに、その中に透かしや特殊加工をほどこしながらロール状に流れ出てくる原紙。その上に特殊インクと凹版印刷と呼ばれる印刷箇所が盛り上がる独自の技術やホログラムなどを組み合わせた見事な印刷が重ねあわされていくさまをみると、「日本のお札は世界一です。」と胸を張る職員の気持ちも分かる気がします。

考えてみれば、今起きているサブプライムローンが「証券化」と言う金融手法で化けてそのリスクが世界中に広がった問題や、レバレッジをかけた先物取引などのほうが、前代未聞、世界経済を揺るがす規模でのお金の信用創出、錬金術なのだと思えます。手間暇かけて偽札を作っても、現代の錬金術には到底及ばないし、割りに合わなくなるということだろうと想像がつかます。まじめな技術者の皆さんの熱心な説明を聞いてそんな確信を持ちました。

だから、今度は、もう一方のウソを暴くこと。アメリカの金融手法を徹底的に検証して、日本は、だまされてばかりはいないぞと、言えるところまで頑張ります。

## ○外国人の地域共生モデルを

「中川さん、今、この地区の小学校では、何割くらいが外国人の子供たちだと思いますか？もう 4 割を超え始めています。このまま増え続ければ、最後には、全てが外国人の子供たちとなる可能性だってあります。現在の学校の体制でもなかなかおいつかないの

に、このままの状態でもいいのですか？」先日の地域の懇談会で出てきた話です。四日市の笹川団地は、状況が切迫しています。

日本語が十分にできない子供たちを対象にして教える特別支援教室を設置したり、団地の外国人コミュニティに自治会組織を作る誘導をしたり、NPO、学校、自治会などが様々な努力を積み重ねている、その苦勞に頭が下がります。

国の法整備を急ぐことはもちろんです。関係者の皆さんからも、県や地元自治体に具体的な要望が出ています。

1. 公営住宅での外国人受け入れは、一箇所に集中させず、分散型にすること。
2. 地域コミュニティと外国人の間に立つ NPO の育成と活用。
3. 運転免許証のポルトガル語での受験
4. 子供たちの教育機会充実を支える財政負担を賄うために、県による多文化共生基金の創設と関連企業の拠出参加。

三重県の北勢地域は、将来の日本を先取りしています。この問題に多くのご意見をいただきたいと思っています。私は、地元で正しい先進モデルを作る努力を具体的にしていきます。

## ○炎天下のゴルフ

炎天下で、1 年ぶりのゴルフをしました。パートナー達がフェアウエー上をまっすぐに打って、悠然とカートに乗って移動していく姿を目で追いながら、山あり、谷あり、へびが出てくるようなゴソゴソのなかを走り回るわが身の辛さを、分かってもらえるでしょうか。それでも、たまにスカッとドライバーがまっすぐに飛んだときには、気分は、天に昇ります。たまに当たるから、喜びもひとしおなんだと言うことです。スコアは、訊かないでください。